

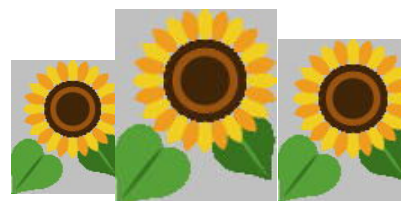
坂越中学校

学校だより

潮流

7 月 号

2010. 6. 30



真の国際人として・・・

先日、本棚を整理していると、中学校の道德の時間に使用していた副読本「友だち」（兵庫県教育委員会 平成 5 年 3 月 1 日 発行）が見つかりました。担任をしていた頃を思い出しながら読んでみると、「愛はヒマラヤのふもとへ」という文章を見つけ、昔の授業を思い起こし懐かしさを感じました。

医大の准教授をなげうって、ネパールの中西部の中心地タンセンという小さな村（人口五千人、眼下に雲を見る千七百呎の山の上にある：昭和 4 0 年頃）で、伝染病対策にご夫婦でご尽力された日本人医師、岩村昇医師のお話です。

当時のネパールの平均寿命は 3 0 歳（昭和 4 0 年頃）、結核、ライ病、細菌性赤痢などが蔓延（まんえん）し、医師も看護師も全く足りません。患者たちは、体が弱っているのに険しい山道を五日も十日もかけて歩いてくるのです。生まれてから死ぬまで医者顔を見ないで終わる人が大半です。ですから、岩村先生はこの無医村にとって神様のような存在で尊敬されていました。

岩村先生は、「なぜ、ネパールを救うのですか。日本にも無医村の辺地だってあるじゃないですか。」という質問を何回か受けたことがあるそうです。「日本の辺地もネパールと同じかもしれません。しかし、私は、たまたまネパールの悲惨な姿を見たのです。そして、それを『ほっておけない』と思うと、私の心はネパールにくぎづけされたようになったのです。」

岩村先生はさらに言います。「もし私が、ネパールに生まれているとしたら、とうてい今日までの三十八歳の生命はなかったでしょう。なぜなら、ネパールでは平均寿命は 3 0 歳だからです。言ってみれば、三十歳以後の命は余った命です。なぜ余ったか。それは日本の医学に救われ、日本の文化に育まれたお陰です。この私の手に、日本の人達の善意によって贈られた B C G などが託されているのです。（※当時、B C G 接種のために寄付をお願いすると、快くしてくれる方が多くいたのです。）そのことを思うとき、私は私たちが現在もっている文化の意味、その果たすべき役割というものをしみじみ考えてしまうのです。」

今の日本は外国の人に比べて世界に通用する国際人としての貢献度が低いと言われています。物が豊かになったけれど、心は貧しくなってきたとも言われます。お金さえあれば何でも手に入り、小さい頃から結果的に甘やかされています。そして、自己中心的になってきています。

しかし、岩村先生のように、人を慈（いつく）しみ、愛する心があってこそ、日本人が国際人として活躍できるのだと思います。他の人の次に自分のことを考え、他人に優しく生きていってほしいです。真の国際人としての日本人が一人でも多く増えることを心から願っています。

頑張れよ！ 坂中生

学校長 山根英樹



7月行事予定

- 1 (木) 交通立番
- 3 (土) 市総体(野球・テニス・バレー・剣道)
生島・坂越湾清掃活動
- 4 (日) 市総体(テニス・バレー・水泳)
- 5 (月) 振替休業日
市総体(野球決勝)
- 7 (水) P T A 委員総会・心肺蘇生法講習会
- 1 1 (日) 西播総体(水泳)
- 1 2 (月) □個別懇談会
- 1 3 (火) □個別懇談会
- 1 4 (水) □個別懇談会
- 1 5 (木) □個別懇談会
地区懇談会
- 1 6 (金) 給食終了日
- 1 7 (土) 西播総体
- 1 8 (日) 西播総体
- 1 9 (月) 海の日
- 2 0 (火) 1 学期終業式
- 2 2 (木) 相生産業高校オープンスクール
龍野北高校オープンスクール
- 2 3 (金) 市民促実践研究発表会
- 2 4 (土) 県立大附属高校オープンスクール
- 2 7 (火) 県総体
- 2 8 (水) 県総体
姫路工業高校オープンスクール
- 3 0 (金) 坂越中学校区小中教育連携連絡会
子ども県議会(生徒会参加)
- 2 2 (日) 登校日・親子美化作業

第2回を楽しみに

赤穂特別支援学校との第1回交流会終わる

6月11日(金)、今年で22年目を迎える赤穂特別支援学校との交流会が行われました。当日は1年生52名と、職員5名、教育実習生6名が参加し、赤穂特別支援学校中学部の生徒28名や職員と交流を図りました。今年は人数的にもバランスがよく、濃密な交流ができるようにと、5グループに分かれて「ちぎり絵」と「マスキングテープ絵」の共同製作に挑戦しました。あっという間に時間が過ぎ、完成しきれなかったグループからは、もっと時間が欲しかったとの声も聞かれ、楽しい交流ができました。



★支援学校に行っている子たちは、いろいろなことを頑張っているんだなと思いました。掲示物を見てもそうだし、教室に置いてあるものを見てもそう思いました。はじめに自己紹介をしたときに、けん玉をしている子がいました。頑張って練習したんだろうなと思いました。

作品を作っているときも、もくもくと作業に取り組んで頑張っている子もいて、作品作りがとても楽しかったです。

★みんなと仲良く活動できてとてもうれしいです。一人一人いろいろな個性を持っているけど、赤穂特別支援学校は笑顔のたえないとってもいい学校ですね。僕も負けずに頑張りたいです。

みんなと活動できて勉強になりました。ありがとう。

教育講演会

人として生きていくための大切なこと

位田隆久先生

期末テストが終わった6月25日の午後、元報徳学園校長で、現在ライフハーモニー教育研究所所長の「位田(いんでん)隆久」先生をお招きし、「人として生きていくための大切なこと」と題して、いろいろなお話をうかがいました。中学生にもわかりやすく、ユーモアも交えながらの話に先生の人柄がにじみ出ていて、有意義な時間を過ごせました。



体験！

～キャップハンディ3種～

午後は関西福祉大学で「車椅子」「アイマスク(白杖)」「コミュニケーション(手話)」の3種類の体験をさせていただきました。

★今日、キャップハンディ体験をして、サポートをしてもらう人は不安な気持ちでいっぱい、サポートする側は、ただ助けるだけではなく、サポートをしてもらう側の気持ちになって、安心できるように努力をしないとけないということがわかりました。僕もサポートしてくれる人が、しっかり声を出してくれたので、とても安心しました。そして、手話を使ってコミュニケーションをしている人は、すごい努力をしていると思います。

今日学んだことは、ほんの一部だけど、町でそういう人がいたら、それを生かしていきたいです。

★キャップハンディ体験をしたことで、障害などに関する理解を深めることができました。車椅子体験やアイマスク体験で、介護する人とされる人とが、信頼し合っていく大切さを知っ

たし、コミュニケーション学習では、実際に手話ができるようになったことで、耳の聞こえない人でもこのようにコミュニケーションを取っていくんだとわかりました。

どの体験も難しかったですが、今日のキャップハンディ体験で、障害について改めて考えることができました。本当にいい体験ができてよかったです。

★先生の話聞いて、誰でもやる気や夢があれば、本当に無理なことなんてないんじゃないかと思いました。私はすぐ「無理」、「できひん」とやる前からあきらめていました。でも、今日のお話で、1つ夢を持ちたいと思いました。そして、何でもやりたいことが見つかったら、自分の力を最後まで出して、挑戦してみたいと思いました。



